

やまなりしゅぞうてんぼけんおもやはなれざしきうちぐらくらひがししこみぐらにししこみぐら
山成酒造店舗兼主屋、離れ座敷、内蔵、蔵、東仕込蔵、西仕込蔵

(1) 所在地 井原市芳井町築瀬字見瀬側

(2) 所有者 個人

(3) 概要 小田川西岸の集落角地に位置する。山成家は代々庄屋を務めた家柄で、第7代政右衛門が文化元（1804）年に酒造業を開始した。明治10（1877）年に火災により建物の大半を焼失したが、酒造業継続のため直ちに再建されたと伝わる。再建後、これまでに幾度かの改修を経ているが、当時の様子を残している。

店舗兼主屋は敷地南東に建ち、東面する二階建切妻造平入棧瓦葺。外壁は漆喰塗で二階下部に海鼠壁を廻らす。内部は、中央北寄りには石敷の通り土間とし、北は帳場と洋室、南は瓶詰場と吹抜の倉庫とした、間口の長大な建物である。火災焼失後明治15（1882）年に再建された。

離れ座敷は敷地北側に建ち、平屋建寄棟（よせむね）造棧瓦葺とし南と東に下屋を付している。間取りは東西二室で、東室は座敷、西室は仏間としている。火災焼失後、大正4（1915）年に再建された。

内蔵は敷地中央に建つ家財蔵。二階建切妻造妻入棧瓦葺の東西棟で、離れ座敷と縁で繋がる。外壁は漆喰仕上で、下部はモルタル仕上。各階東西二室で一階は板敷、二階は畳敷で竿縁（さおぶち）天井を張る。明治後期に建てられたと推定される。

蔵は敷地南東隅に建ち、切妻造棧瓦葺の東西棟。外壁は軒まで塗込めた漆喰塗仕上とし、一、二階の下部は海鼠壁とする。内部は東西二室に仕切り、西寄りは土間で上部吹抜とした米蔵、東寄りは二階建で各階板敷の家財蔵である。火災後、近隣の星田村から移築したと伝わる。

東仕込蔵は店舗兼主屋の西に建つ二階建切妻造棧瓦葺の南北棟。大正後期に北に試験室を増築。外壁は漆喰塗仕上で下部をモルタル塗仕上とする。一階内部は広大な土間で、中央上部を吹抜として、貯蔵タンクを並べる。明治前期に建てられたと推定される。

西仕込蔵は敷地西端に建つ二階建切妻造棧瓦葺の南北棟。昭和中期に南に増築し、全体で長大な建物となっている。外壁は漆喰塗仕上で下部は縦板張とする。内部は、中央西寄りの麴室以外は間仕切を設けず、広い作業場としている。東仕込蔵と同時期に建てられたと推定される。

(4) 登録基準

- 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの 店舗兼主屋、内蔵、蔵、東仕込蔵
西仕込蔵
- 二 造形の規範となっているもの 離れ座敷



位置図

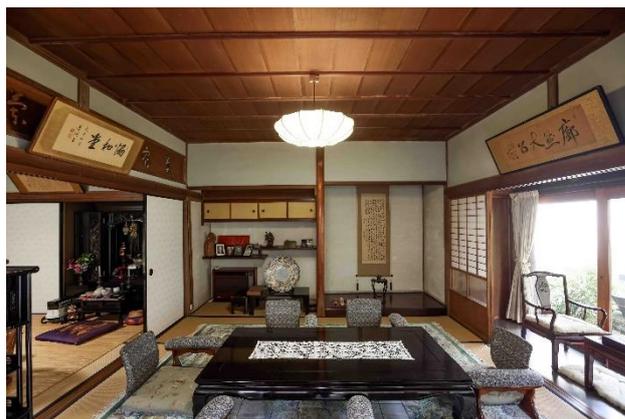
(写真)



山成酒造店舗兼主屋外観



山成酒造離れ座敷外観



山成酒造離れ座敷東室内部



山成酒造内蔵外観



山成酒造内蔵二階内部



山成酒造蔵外観



山成酒造東仕込蔵外観



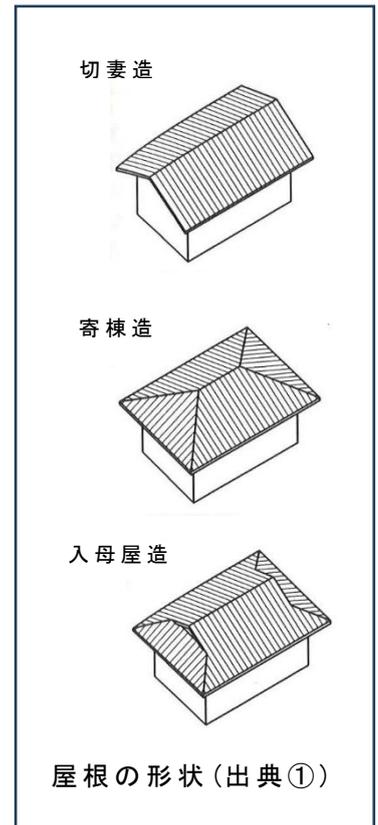
山成酒造西仕込蔵内部



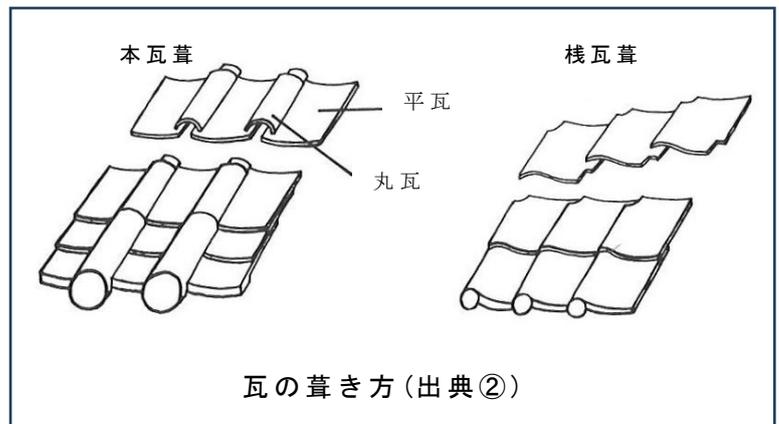
山成酒造西仕込蔵外観

【用語解説】

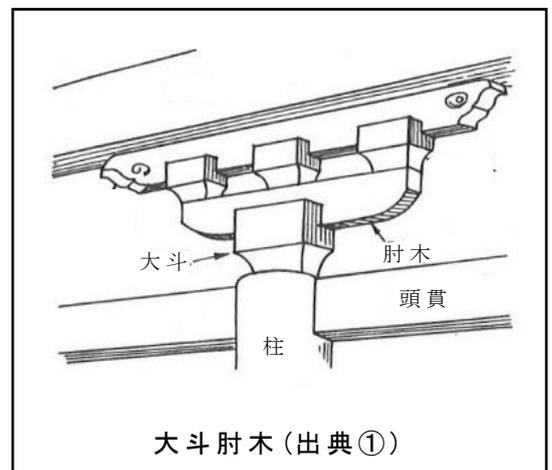
- 切妻造（きりづまづくり）：棟から両方に葺き下ろした、二つの面からなる屋根、あるいはその形の屋根をもった建物。
- 寄棟造（よせむねづくり）：四方に流れる屋根のうち棟を持つもの。
- 入母屋造（いりもやづくり）：寄棟造の屋根上部に切妻（きりづま）の小屋根を合わせたような形状の屋根の造り。
- 本瓦葺（ほんかわらぶき）：平瓦と丸瓦を交互に用いて葺いた屋根。
- 棧瓦葺（さんがわらぶき）：横断面波形の瓦で葺いた屋根。
- 下屋（げや）：本屋の外壁に接して設けられた片流れの屋根、またはその下の空間。
- 海鼠壁（なまこかべ）：土蔵造りの建物外壁仕上げ方法の一つ。方形の平瓦を並べて釘止めし、目地に漆喰を断面海鼠形＝半円形に盛り上げたもの。



- 薬医門（やくいもん）：中世に武家又は公家の屋敷などに現れた門形式の一つ、後に城郭や社寺、さらには民家にも使われるようになった。

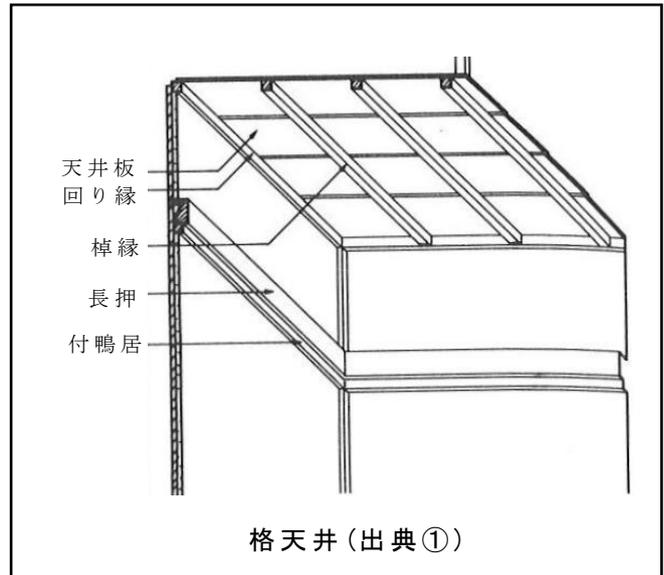
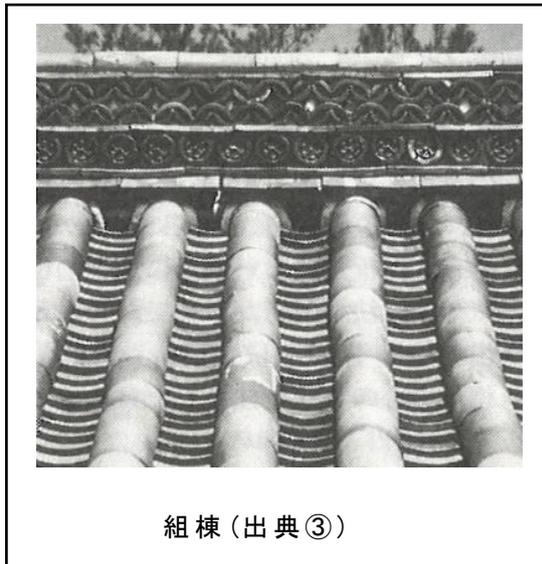
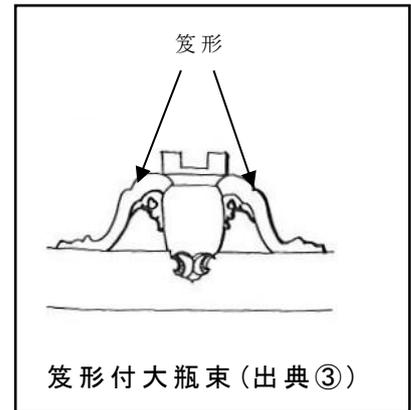


- 貫（ぬき）：柱同士をつなぐ横木で、場所・用途によって足固貫、腰貫、頭貫などと呼ばれる。
- 大斗肘木（だいとひじき）：肘木とは上部の荷重を受ける横木で、形状や使用箇所によってさまざまに呼ばれる。
- 笈形付大瓶束（おいがたつきたいへいづか）：妻に使われ棟木を支える円形の束で、形状が下



方ほど細くなり、瓶子に似ているので、この名が付いた。
両脇に装飾として笈形と呼ばれる彫刻を付けたもの。

- 男梁（おうつばり）：門柱上部の桁行に2重の梁（横木）が出ているときに、上に位置するものを男梁、下にあるものを女梁（めばり）と呼ぶ。
- 繁垂木（しげだるき）：密に並べた垂木。
- 組棟（くみむね）：青海波、輪違いなど棟込み瓦を棟の上下の間に組み込んだこと。
- 棹縁天井（さおぶちてんじょう）：棹縁と呼ばれる細い材の上に張った天井。



出典① 小林一元・高橋昌巳・宮越喜彦・宮坂公啓編著 1997 『木造建築用語辞典』 井上書院

出典② 文化庁歴史的建造物調査研究会編著 1994 『建物の見方・調べ方 江戸時代の寺院と神社』
きょうせい

出典③ 武井豊治著 1994 『古建築辞典』 理工学舎

出典④ 彰国社編 1993 『建築大辞典第2版』 彰国社